

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こども発達支援室		公表日		令和8年2月26日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	4	・環境設定は職員で話し合いながら、十分なスペースが確保できるようにしている。	・活動内容によっては狭く感じることもある為、安全面にも配慮していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3		・国で定められた基準に沿って、適切な職員数を配置しているが、利用児が低年齢なこともあり、サポートを多く必要とする。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	・活動内容に応じて構造化し、こどもにもわかりやすくしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	・指導後は消毒や清掃を行い、定期的に専門業者にも清掃作業をしてもらっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	・クールダウンのスペースとして、廊下や空いている部屋を使用することができる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	・毎日カンファレンスを行う中でPDCAサイクルを意識し、業務改善についても検討している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	・日々の教室や評価表を通し、保護者からご意見をいただき、改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	・カンファレンスや会議等で意見を把握し、業務や支援の改善に努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	0	・利用者評価や事業所評価は評議委員会に提出している。	・特に指摘は受けていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	・積極的に研修会に参加したり、事業内でも復命や学習会を行っている。	・今後も研修会の参加や定期的な学習会を行い、職員の資質向上に努めていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	1	・ホームページに公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0	・アセスメントを行い、お子さんと保護者のニーズを踏まえた児童発達支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	・サービス担当者会議や個別支援会議を行い、関係者で共通理解を図るようにしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	・モニタリング内容を共有し、1人ひとりのお子さんの課題を確認して支援に活かすようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	・事業所内で共通したフォーマルアセスメントツールを使用している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	・各項目について、子ども1人ひとりの発達や育ちを考慮しながら設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	・各月の活動内容について職員間で話し合い、考えている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	・言語聴覚士や作業療法士の専門職の先生にも助言をいただき、活動内容を工夫している。	・季節や地域行事に合わせて幅広く、いろいろな経験ができるように、今後も考えていく。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	・個別活動と集団活動を組み合わせ、1人のお子さんに応じた支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	・教室開始前に職員で打ち合わせを行い、活動内容や教材の確認、役割分担などを確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	・教室終了後にはカンファレンスを行い、改善点や反省をまとめている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	・1人ひとりの療育記録を作成し、次の支援につながるよう職員間で共有するようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	・年2回モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しをしている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	・基本的に児童発達支援管理責任者が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	・保健センター、協力医療機関等、必要に応じて連携できる体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	・保護者の同意を得た上で、お子さんの在籍園への訪問や電話等で情報共有をしている。インクルージョンの観点から、地域での過ごし方を支援している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3	・必要に応じて情報共有や移行支援会議を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	0	・同法人内に児童発達支援センターがある為、連携を取りやすい。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	6	・事業所として交流はしていない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	1	・電話やメール、来室での相談はいつでも受け付けている。定期的に面談し、お子さんの発達について共通理解をしている。	・月1～2回の利用で時間も限られているが、お子さんの様子についてこまめに話を聞いていきたい。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	・ペアレントトレーニングや保護者サロンを開催している。お知らせ配布や掲示にて周知している。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	・契約時に説明し、保護者にはいつでも確認してもらえるように冊子を準備したり、ホームページに公表している。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	・アセスメントでお子さんと保護者のニーズを確認し、児童発達支援計画書を作成している。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0	・発達の5領域を踏まえ、ニーズや課題を整理しながら作成した計画書を説明し、保護者から同意を得ている。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	・定期的なモニタリング以外にも、必要に応じて個別相談の機会を設け、必要な助言と支援を行っている。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1	・保護者会は開催していない。 ・保護者サロンの開催やイベント等は兄弟児も参加可とし、家族支援につなげている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	・同施設に相談支援事業所がある為、必要に応じて連携し、悩みや相談には迅速に対応できるようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	5	・日々の活動については、活動内容やねらいを記載した用紙を配布している。 ・土曜教室やイベントについては掲示したり、メール配信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	・個人情報に該当するものは、鍵付きのロッカーで保管し、十分に注意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	・視覚的支援ツールを使用することで、お子さんとのやり取りの幅を広げている。 ・活動表やコメントを記入した記録を渡しており、振り返りができるようにしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	6		・保護者のニーズを確認しながら検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	3	・各種マニュアルを策定し、利用者がいることを想定した訓練を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1	・マニュアルの策定や見直し、実施訓練等、また、備蓄品の管理は時期を決めて行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	・アセスメント時に確認している。 ・母子療育である為、医療行為については保護者に対応してもらう。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	・アセスメント時に確認している。 ・母子療育である為、医療行為については保護者に対応してもらう。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	・安全計画を作成し、研修や訓練を事業所内で行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	・安全や保健に関するお知らせを配布、掲示している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	・ヒヤリハットがあった場合は事業所内で共有し、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	・虐待防止委員会を設置し、定期的な研修会や体制の見直しをしている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	・契約児に身体拘束について説明し、必要な子は保護者から同意を得ている。また、児童発達支援計画書にも記載している。		